

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況及び評価等について

守谷市立松ヶ丘小学校

1 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程を編成・実施する学校

守谷市立松ヶ丘小学校

(2) 特別の教育課程の概要

守谷市保幼小中高一貫教育のスローガン「世界に輝く人づくり」を目指し、急速に進展するグローバル化に対応することができる人材を育成するため、小学校 1 年生～2 年生において、生活科の 35 時間分（1 年生は 34 時間分）を設定する。「英語活動」においては、守谷市独自に配置している外国語指導助手（ALT）との交流の機会を多く設け、体験的な活動を通して外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行う。

(3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する 必要性

守谷市では、保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進し、就学前の保育所等でも、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れたり、外国人講師との英語での交流機会を設けたりしている。この保幼小中高一貫教育としての継続性から、就学前の学びを小学校入学後においても継続する必要性がある。

また、外国語教育に関する意識調査からも、外国語に係る学習への興味・関心が高い児童の割合が高く（87.7%）、将来は国際社会で活躍することを希望する児童生徒も多い。保護者からも本市の外国語教育に係る取組に対して高い支持を得ており、特別の教育課程を編成する必要がある。

(4) 特例の適用開始日

平成 23 年 4 月

平成 30 年 4 月 変更

平成 31 年 4 月 変更

令和 2 年 4 月 変更

令和 6 年 4 月 継続

令和 7 年 4 月 継続

(5) 取組の期間

令和 9 年 3 月 31 日まで

2 特別の教育課程の編成・実施計画に基づく実施状況

- ① 計画通り実施できている
 - ・一部、計画通り実施できていない
 - ・ほとんど計画通り実施できていない

3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に関する自己評価結果

(1) 第1学年児童による評価

- ① 英語活動の時間は、楽しいですか。

	割合 (%)
とても楽しい	60.0
楽しい	30.6
あまり楽しくない	7.1
楽しくない	2.4

- ② ALT の先生といっしょの活動は楽しいですか。

	割合 (%)
とても楽しい	63.5
楽しい	28.2
あまり楽しくない	5.9
楽しくない	2.4

- ③ 英語をもっと話せるようになりたいですか。

	割合 (%)
とても話せるようになりたい	72.9
話せるようになりたい	16.5
あまり話せるようになりたくない	8.2
話せるようになりたくない	2.4

- ④ 外国のことをもっと知りたいと思いますか。

	割合 (%)
とても知りたい	56.5
知りたい	23.5
あまり知りたくない	14.1
知りたくない	5.9

(2) 第2学年児童による評価

① 英語活動の時間は、楽しいですか。

	割合 (%)
とても楽しい	76.9
楽しい	21.2
あまり楽しくない	1.9
楽しくない	0

② ALT の先生といっしょの活動は楽しいですか。

	割合 (%)
とても楽しい	75.0
楽しい	23.1
あまり楽しくない	0
楽しくない	1.9

③ 英語をもっと話せるようになりたいですか。

	割合 (%)
とても話せるようになりたい	67.3
話せるようになりたい	25.0
あまり話せるようになりたくない	1.9
話せるようになりたくない	5.8

④ 外国のことをもっと知りたいと思いますか。

	割合 (%)
とても知りたい	67.3
知りたい	21.2
あまり知りたくない	9.6
知りたくない	1.9

(3) 保護者による評価

① 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることについて、どのようにお考えですか。

	割合 (%)
とてもよい	81.0
よい	17.6
あまりよくない	0.7
よくない	0.7

② お子様は、外国語教育の時間を楽しみにしていますか。

	割合 (%)
とても楽しみにしている	23.6
楽しみにしている	53.5
あまり楽しみにしていない	19.0
楽しみにしていない	3.9

③ 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることで、お子様が英語を繰り返し学ぶ機会が増えていると思いますか。

	割合 (%)
とても増えていると思う	21.1
増えていると思う	58.8
あまり増えていると思わない	16.5
思わない	3.5

④ 小学校1年生から外国語教育に取り組むことで、お子様に力が身に付いているとお感じになることはどんなことですか。(複数回答可)

	割合 (%)
積極的に楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度	31.8
(英語を) 聞く力	28.3
(英語を) 話す力	20.3
(英語を) 読む力	4.8
(英語を) 書く力	3.0
力が身に付いていると思わない	11.8

⑤ 今後の小学校の外国語教育について、どのようなことを希望しますか。ご意見等があれば、お聞かせください。

- ・英語の時間を増やしてほしい。
- ・All English の授業を推進してほしい。
- ・別の教科を英語で授業してほしい。
- ・ネイティブな発音に毎週触れられてよい。
- ・宿題を出してほしい。自宅で学べるツールを入れてほしい。
- ・英会話力を高めてほしい。
- ・学んだことをアウトプットする機会 (show&tell 等) を増やしてほしい。
- ・異文化に触れ、外国の方と交流する機会を増やしてほしい。
- ・外国語の文化を取り入れた季節のイベントを取り入れてほしい。
- ・中学校につながる学び (書く力など) を行ってほしい。
- ・塾に行っていないなくても楽しめる授業を行ってほしい。
- ・フォニックス
- ・少人数、習熟度別授業
- ・交換留学、ホームステイ、海外研修、実地研修

(4) 学校関係者（教職員）による評価

- ① 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることについて、どのようにお考えですか。

	割合 (%)
とてもよい	77.8
よい	22.2
あまりよくない	0
よくない	0

- ② 児童は、外国語教育の時間を楽しみにしていますか。

	割合 (%)
とても楽しみにしている	44.4
楽しみにしている	22.2
あまり楽しみにしていない	27.8
楽しみにしていない	5.6

- ③ 小学校1年生から外国語教育に取り組んでいることで、児童が英語を繰り返し学ぶ機会が増えていると思いますか。

	割合 (%)
とても増えていると思う	61.1
増えていると思う	38.9
あまり増えていると思わない	0
思わない	0

- ④ 小学校1年生から外国語教育に取り組むことで、児童が身に付いているとお感じになることはどんなことですか。（複数回答可）

	割合 (%)
積極的に楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度	30.3
（英語を）聞く力	27.3
（英語を）話す力	6.1
（英語を）読む力	30.3
（英語を）書く力	6.1
力が身に付いていると思わない	0

- ⑤ 今後の小学校の外国語教育について、どのようなことを希望しますか。

・週一回外国語の授業があることや、ALT が校内にいて自然と英語でコミュニケーションを図ろうとする力が身に付いて、素晴らしいと思う。

4 実施の成果と今後の課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により目指す学校の教育目標達成の成果

児童アンケートの結果から、「英語を話せるようになりたい」という児童が、平均で1・2年生が90.9%、3・4年生が89.0%、5・6年生が91.2%と、全学年非常に高い意欲を示していることが明らかになった。児童の英語学習に対する前向きな姿勢が維持されていることが分かる。

1・2年生の英語活動では、ジェスチャーやゲームなどの動的な活動を繰り返し取り入れることで、児童が異言語に親しみ、自ら進んで学ぼうとする積極的な態度を育むことができた。5・6年生の授業では、児童同士の対話の時間を増やし、基本的な表現の定着を図った。また、スピーチやプレゼンテーションを行うなど、身に付けた表現をアウトプットする場面設定を意図的に設定し、表現力を高めるとともに、コミュニケーション能力の基礎を養った。

これらの取組により、今年度実施の英検 ESG では、受験者の83%が9割以上のスコアを獲得した。学年の実態に応じた系統的な指導を展開したことが、児童の主体的かつ意欲的な学び、そして高い習熟度へと繋がったと考える。

(2) 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標達成の成果

98.6%の保護者が「小学校1年生から外国語教育に取り組んでいること」について肯定的に受け止めており、早期からの外国語教育の導入に対し、保護者から多大な理解と期待が寄せられていることが分かる。ALT との直接的な交流機会の確保に加え、高学年でのオンライン英会話の導入により、既習事項を実際のコミュニケーションで試す場が設定され、児童の表現意欲を大きく高めることにつながったと考える。

(3) 今後の課題

児童アンケートの結果から、「英語・外国語活動の時間が楽しい」と肯定的に感じている児童が、平均で1・2年生が94.4%、3・4年生が66.3%、5・6年生が67.6%となっており、学年が進むにつれて減少傾向にあることが分かった。どの学年においても学習の楽しさを実感できるような授業改善をさらに進める必要がある。

保護者および教職員の評価において、身に付いた力として「聞く力」や「態度」への肯定感が高い一方、「話す力」「書く力」への評価は相対的に低い傾向にあることが明らかとなった。中学校教育への円滑な接続を見据え、アウトプットの質をさらに高める指導体制の整備が必要である。

英検 Support Program ESG では、団体平均スコアが、前年度と比べて25ポイント下がっている。また、リスニング・リーディング共にスコアが低下傾向にあることを踏まえ、指導法の再点検と定着状況の把握を強化する必要がある。

5 授業の様子



動作を介して楽しく学ぶ様子(1年生)



オンライン英会話の様子(6年生)